

産地戦略

実施期間 令和5～7年度

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 瀬戸市、愛西市、碧南市、豊川市、設楽町
対象品目 施設トマト類



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

愛知県の施設トマト類産地では、これまでに環境モニタリング機器を利用した環境制御技術の確立に取り組み、増収が図られてきた。病虫害防除についても、化学農薬の使用回数の削減による省力化が求められており、さらに「みどりの食料システム戦略」の策定や消費者志向の変化を受けて、環境に配慮した防除体系の確立に向けた機運も高まっている。

そこで、天敵昆虫及び微生物農薬によるコナジラミ類を始めとした害虫防除、ICT機器を用いた施設内環境の改善による病害発生リスクの低減技術を検証し、愛知県トマト産地全域における化学農薬低減と省力化を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名						定植		収穫					
技術名								化学農薬散布					

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	36.7	34.3	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.7	12	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.7	12	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.7	12	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬を中心とした病害虫防除	▶ 天敵資材・微生物農薬およびICTを活用した総合防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	コナジラミ類に対する化学農薬の使用回数（回）	17	▶ 14	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

検証結果を元に愛知県トマト産地に適したグリーンな栽培体系マニュアルを作成する。マニュアルを参考に、普及指導員や営農指導員を対象とした指導者向けの研修会及び生産者を対象とした研究会で技術の共有を図るとともに、現地巡回等で生産者に直接助言指導する。

関係者の役割

関係者名	農業革新支援センター	普及指導センター	農業総合試験場	JA、経済連
役割	研修会等の開催、技術指導	技術指導	技術開発及び助言	技術指導、研修会等の開催